

4.2.3 遠隔合同授業の実践例3

互いの意見や考え方を発表し合うことで、多様な意見に触れることができる授業。

| 学年 | | |
|----|----|----|
| 1年 | 2年 | 3年 |
| 4年 | 5年 | 6年 |

| 教科・単元 |
|--------------|
| 道徳 / 銀のしょくだい |

学校①

学校 **西条市立徳田小学校**

学級人数 **5人**

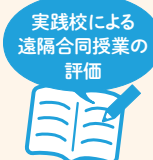
学校②

学校 **西条市立田野小学校**

学級人数 **11人**

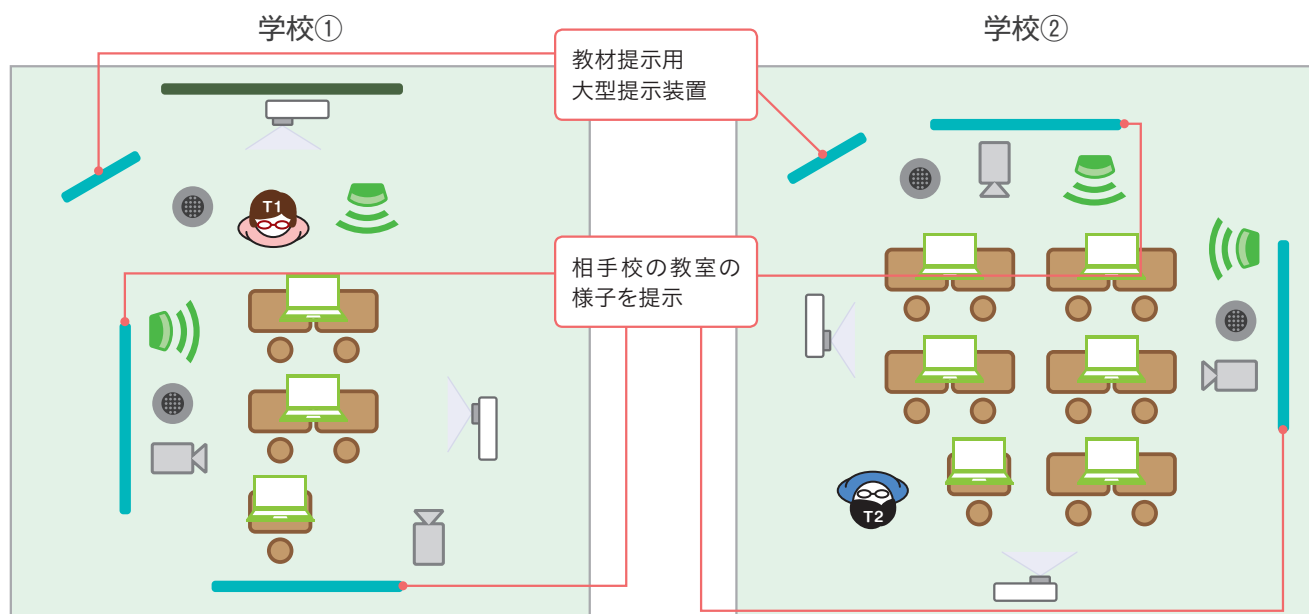
▼ICTを活用するねらい

| ICTを活用して行う活動や場面 | ICTを活用する意図やねらい |
|---|--|
| 大型提示装置に提示した資料をもとに、発問を提示し、自分の考えの変化を話し合う。 | 大型提示装置に資料を提示し、視覚的に子供たちの理解を助け、多様な意見や考えに触れ、自分の考えを話し合う。 |
| 遠隔会議システムを通じて、両校の児童が自分の意見を発表し合う。 | 相手校の児童の多様な意見や考えに触れ、自分の考えを広げる。 |
| 遠隔会議システムを用いて、両校の児童が話し合う。 | 相手校の児童との話し合いや議論を通じて、自分の考えを深める。 |



- 実践校による遠隔合同授業の評価**
- 遠隔合同授業での意見交換を重視し、両校児童が議論する場を設定したことにより、普段より活発な話し合いの場が多く見られました。
 - 児童の立場を大型提示装置に示し、児童の意識の変化の様子を比較画面で示す試みにより、視覚的に児童の心の状態を知ることができました。今後の普通の授業でも積極的に取り入れていきたい。

教室内の機器配置



学習活動

教員の指導・援助

ICTの活用方法

4.1

遠隔合同授業における
様々な学習活動

4.2

遠隔合同授業の
実践例

導入

1

学習課題をつかむ
「資料」を読み、主人公が
取った行動について考える。



・「助けてくれたにもかかわらず、銀の皿を盗んで逃げた主人公の行動をどう思うか?」と、両校児童に問いかける。

・大型提示装置に挿絵を示しておく。

展開

2

協働学習
司教の行動について考える。

〈同じ行動がとれる。〉

- ↑
- ・困っている人を助けるのは当たり前
- ・失敗を許すことが大切
- ・助けるけど、燭台まであげする必要はない。
- ・盗むような人を信じてはいけない



・「あなたは司教と同じ行動をとりますか?」と、問いかけ、両校の児童に自分の考えをワークシートに書くように指示する。

・電子黒板に示した心メーターに自分の名前を動かす。



・初めの考えを示す位置をデジタルカメラで撮り、保存しておく。

- ↓
- ・悪いことをしているから当然だ。

〈同じ行動はとれない。〉



・自校の児童にワークシートを配り、机間指導する。



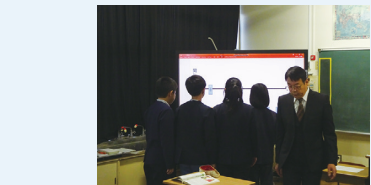
・児童が、それぞれの立場に立つ理由を大切にしながら議論できるようにする。



・両校児童に、ゆさぶりをかけることにより、多様な考えや深い考えを知ることができるようにする。

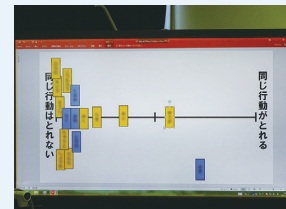


・「広い心」「許す」「人の気持ちを大切にする。」などのキーワードを拾いながら、まとめる。



※「心メーター」: 視覚的に心の状態を知ることができるツール

・議論する中で考えが変わった児童は、児童が示す位置に自分の名前を動かす。
・議論する前に保存した画像と議論後の様子を比較画面で示す。



学習場面

考えや意見の出し合い

学習場面

議論や話し合い



まとめ

3

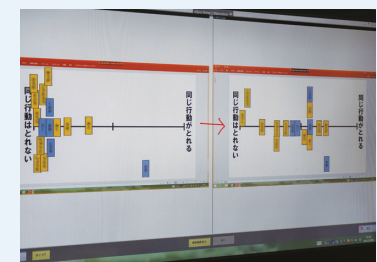
振り返り
これからの自分の行動に
ついて考える。



・学習を振り返り、これからの自分の行動について考え、ワークシートに記入するように指示する。



・発表を促す。



4

教員の話聞く



・司教と別れた後、主人公が正直な人間になったことを知らせる。

4.2.4 遠隔合同授業の実践例4 情報端末を使用した協働学習①

情報端末を使用して両校の児童が互いに遠隔会議システムで接続することにより、両校でグループを作り、コミュニケーションをとる授業。

| 学年 | | |
|----|----|----|
| 1年 | 2年 | 3年 |
| 4年 | 5年 | 6年 |

| 教科・単元 |
|--------------------------|
| 外国語活動 / Do you have “a”? |

学校①

学校 **長崎市立西坂小学校**

学級人数 **18人**

学校②

学校 **長崎市立高島小学校**

学級人数 **1人**

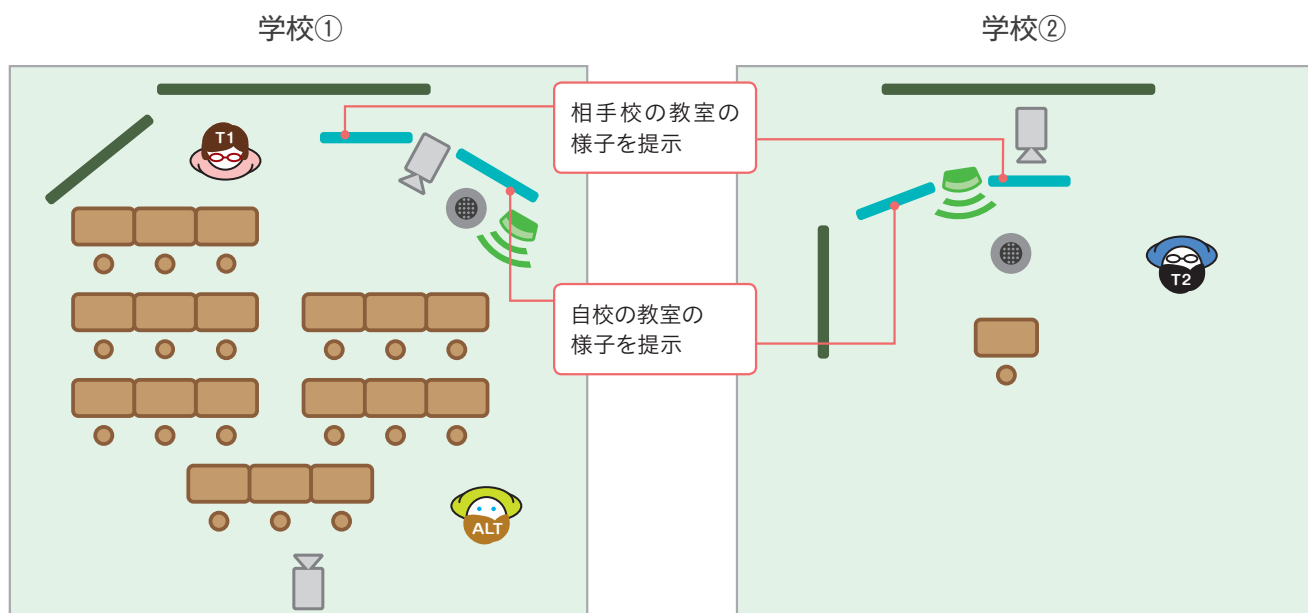
▼ICTを活用するねらい

| ICTを活用して行う活動や場面 | ICTを活用する意図やねらい |
|---------------------------------|--------------------------------------|
| 遠隔会議システムを用いて、両校の児童が自分の意見を発表し合う。 | 相手校の児童と問題を出し合うことを通して、コミュニケーション力をのばす。 |
| | 相手校の児童の意見や考えを聞いて、自分の考えを広げる。 |

実践による遠隔合同授業の評価

- 相手校の児童の反応の良さが伝わり、小規模校の児童も積極的に挙手をして発言を行うことができました。
- 相手校とグループを作り、大型提示装置越しに相手校の児童の様子を見ながら活動を行うことで、まるで同じ教室の中で一緒にゲームをしているかのような臨場感が得られました。
- 相手校の児童に分かりやすく説明しようという意識をもたせることで、積極的に話し合うことができました。

教室内の機器配置



学習活動

教員の指導・援助

ICTの活用方法

4.1

遠隔合同授業における
様々な学習活動

4.2

遠隔合同授業の
実践例

導入

展開

まとめ

Greeting

1



学習場面

遠隔にある教育資源の活用

Aim & Point

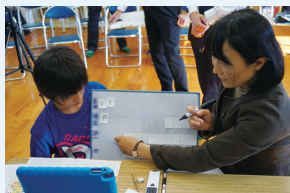
2

前時の振り返りを行い、本時のAimとPointを確認する。

Activity「推理ゲーム」

「推理ゲーム」を行いながら、持っていることを尋ねたり、答えたりする表現に慣れ親しむ。

3



学習場面

考えや意見の出し合い

Today's Review

本時のポイントを視点に、振り返りをカードに記入する。

4



学習場面

発表



主として合同場面の授業進行を受け持つ教員



T1と協力しながら授業進行を行う教員



・英語で挨拶と簡単な質問をする。



・ALTの質問に対して、児童と一緒に挨拶を行う。
・児童と一緒に発音をする。



・ALTが指している場所が見にくかった時、サポートする。



・Aim & Pointを板書する。



・相手校と同じようにホワイトボードに板書する。



・ルールを英語で説明する。



・推理ゲームのデモンストレーションをする。



・発音の時の口の動き等を参考にするためALTの顔をアップにする。

・黒板の左半分(Aim, Try)を拡大して映す。



・遠隔会議システムを使いデモンストレーションをする。
・遠隔会議システムを一旦終了し、情報端末を用いて、両校の児童でグループを作り、ゲームを行う。



・遠隔会議システムを起動し、相手校と接続する。



・各自の気付きや分かったことなどを発表させる。



・マイクを発表者に近づける。



・児童の活動の様子を称賛する。



・終わりの挨拶をする。

4.2.5 遠隔合同授業の実践例5 情報端末を使用した協働学習②

自分の考えを、協働学習用ツールを使用し両校で共有する授業。

| 学年 | | |
|----|----|-----------|
| 1年 | 2年 | 3年 |
| 4年 | 5年 | 6年 |

| 教科・単元 |
|-------------------|
| 算数 / 分数の比較 |

学校①

学校 **喬木村立喬木第一小学校**

学級人数 **24人**

学校②

学校 **喬木村立喬木第二小学校**

学級人数 **8人**

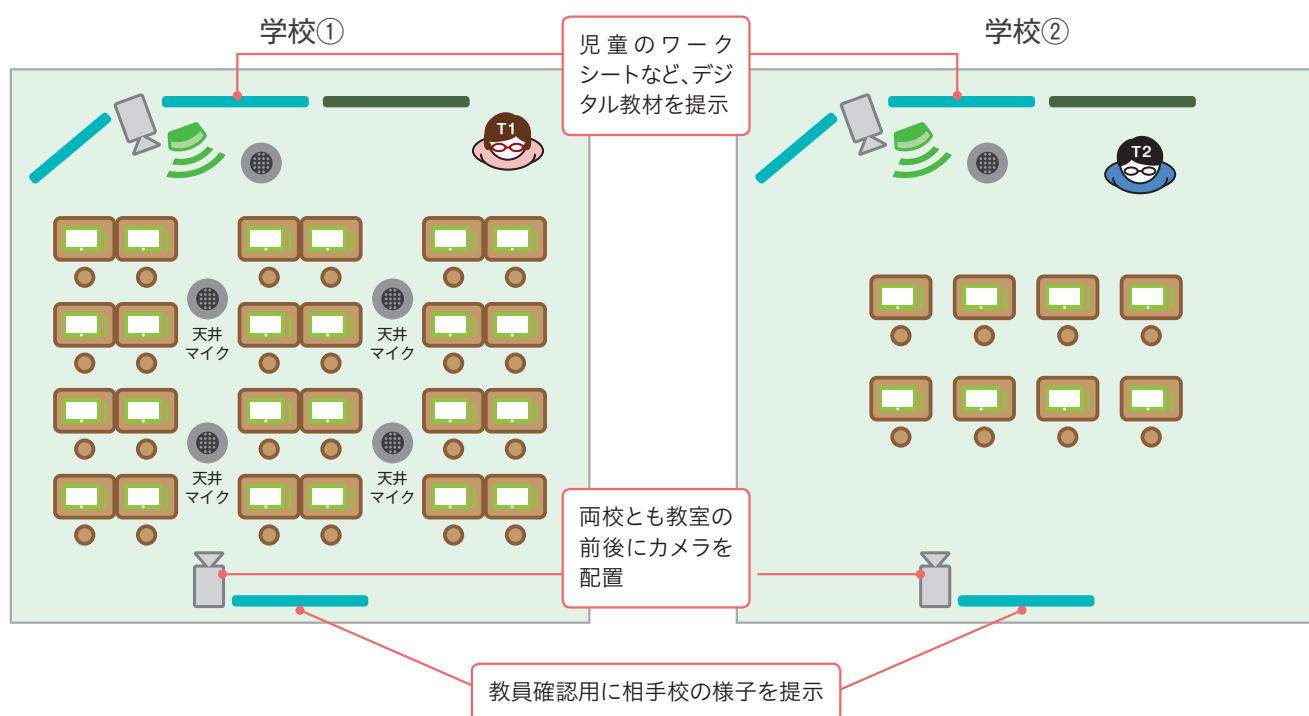
▼ICTを活用するねらい

| ICTを活用して行う活動や場面 | ICTを活用する意図やねらい |
|---------------------------------|--------------------------------------|
| 遠隔会議システムを用いて、両校の児童が自分の意見を発表し合う。 | 相手校の児童と問題を出し合うことを通して、コミュニケーション力をのばす。 |
| | 相手校の児童の意見や考えを聞いて、自分の考えを広げる。 |

実践校による遠隔合同授業の評価

- 両校の児童が自分の考えを話し合う活動を通じて、自校だけでは考え付かなかったいろいろな考え方を知ることができました。
- 全員の考えを一覧表示することで、自分の考えとの共通点や相違点を明らかにすることができました。

教室内の機器配置



学習活動

教員の指導・援助

ICTの活用方法

4.1

遠隔合同授業における
様々な学習活動

4.2

遠隔合同授業の
実践例

導入

展開

まとめ

1

学習課題をつかむ。
「 $\frac{3}{8}$ と $\frac{5}{8}$ では、どちら
が大きいか考えよう」



・本日の学習課題を提示する。

・ホワイトボードに本日の課題を提示し、遠隔会議システムを通して、相手校の大型提示装置に表示する。

2

個人で考える
情報端末に表示されたワークシートに、自分の予想と
どんな方法で考えるかを決めた後に、どちらが大きい
かを考え記入する。



・ワークシートの記入の仕方をサポートする。

・児童用情報端末に表示されたワークシートに自分の考え方を記入させる。

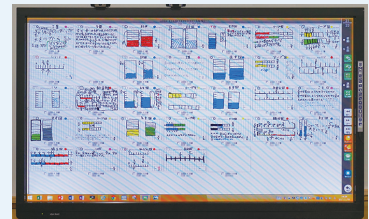
3

クラスの中で同じ考え方同士の人を探して自分の考え方を説明し合う。



・記入したら送信ボタンを押しサーバーにアップロードするように指示をする。

・大型提示装置に、両校の児童の個人学習成果画面を一覧表示する。



学習場面

考えや意見の出し合い

4

相手校の児童の中で、同じ考え方同士の人を探して自分の考え方を説明し合う。



・席を動いてもよいので、友達と一緒に考えるよう指示する。

・大型提示装置に、相手校の児童が映るようにカメラを調整する。



5

全体で
発表し合う。



・挙手した児童を指名し、自分の考え方を説明させる。

・指名した児童の情報端末の画面を大型提示装置上に表示する。

学習場面

発表

6

学習のまとめをする。
授業の感想を発表し合う。



・分かったことや今日の授業の感想を両校の児童に発表させる。

・児童が発表する様子を遠隔会議システムを通して相手校に表示する。

4.2.6 遠隔合同授業の実践例6 情報端末を使用した協働学習③

情報端末を使用して、相手校の児童生徒と一緒にグループを作って学習活動を行う授業。

| | | | | |
|----|----|----|---------|--|
| 学年 | | | 教科・単元 | |
| 1年 | 2年 | 3年 | 算数 / 面積 | |
| 4年 | 5年 | 6年 | | |

学校①

学校 萩市立佐々並小学校

学級人数 3人

学校②

学校 萩市立明木小学校

学級人数 5人

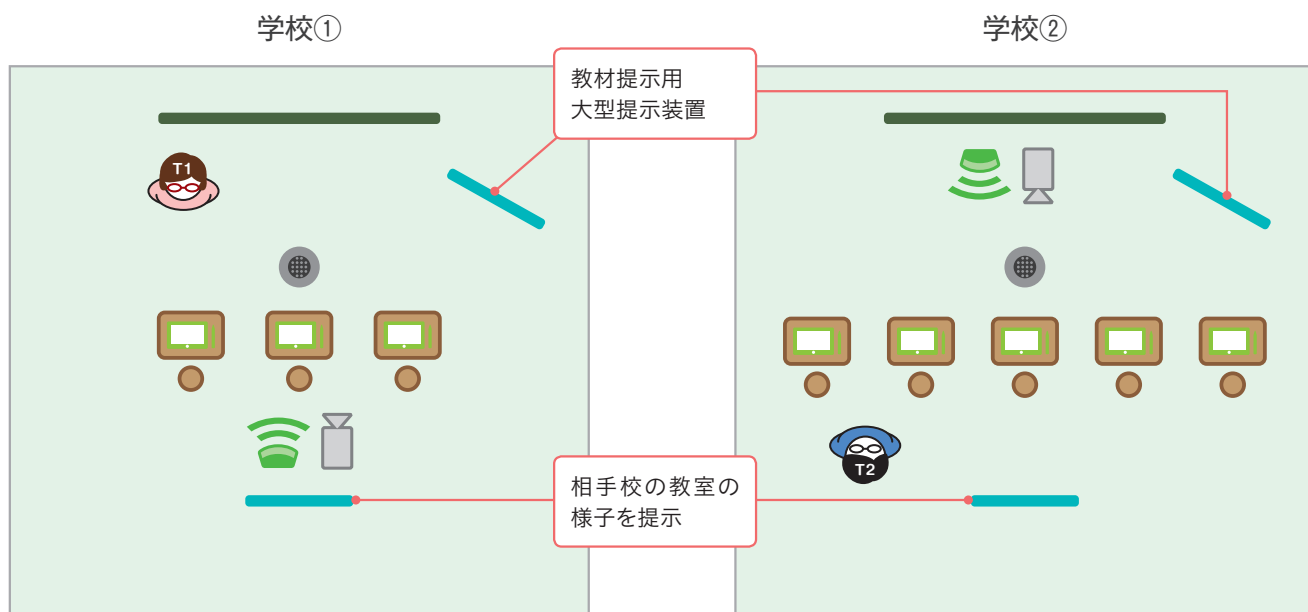
▼ICTを活用するねらい

| ICTを活用して行う活動や場面 | ICTを活用する意図やねらい |
|---------------------------------|---------------------------------------|
| 遠隔会議システムを用いて、両校の児童が話し合う。 | 相手校の児童との交流を通じて、コミュニケーション力を伸ばす。 |
| 遠隔会議システムを通じて、両校の児童が自分の意見を発表しあう。 | 相手校の児童の意見や考えを聞いて、自分の考えを広げる。 |
| 情報端末を用いて、自分の考えを友達に伝える。 | 多様な考え方に触れることで、問題を解く方法がいくつかあることに気づかせる。 |

実践校による遠隔合同授業の評価

- 人数が増えたことで様々な考えに触れることができ、自分の考えを広げることができました。
- 相手意識を持ち、はっきりと意見を発表しようとする姿勢が身に付きました。

教室内の機器配置



学習活動

教員の指導・援助

ICTの活用方法

4.1

遠隔合同授業における
様々な学習活動

4.2

遠隔合同授業の
実践例

導入

学習課題をつかむ。
平行四辺形の面積の求め方を
いろいろ考えて、求め方を
話し合う。

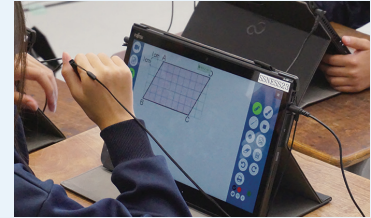
1



・今まで学習した求積公式を使って
面積を求められるかを問う。



・協働学習用ツールを使用し児童用
情報端末に、図を表示させる。



ペア学習
(相手校の児童とペア)

2

・今まで学習した求積公式をも
とにして、どう考えたら面積を
求められるか話し合う。

学習場面

議論や話し合い

・情報端末の共有ノートに書き込みな
がら相手校の児童と話し合わせる。



・協働学習用ツールの共有ノートに
アップロードし、相手校の児童とペ
アでヘッドセットを使用して話しな
がら書き込めるようにする。



展開

協働学習

・平行四辺形の面積のいろい
ろな求め方を話し合う。

3



学習場面

考えや意見の出し合い



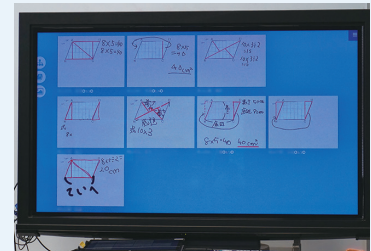
・児童の考えがつかぬように、意図
的指名をする。



・児童の考えを分類しながら板書する。



・教員用情報端末に表示される各
児童のデジタルノートを見て、児童
の考えを把握する。



まとめ

振り返り

・平行四辺形の面積の求め方
について、話し合っ分かつた
ことや、友達の説明でよ
かつたところをノートに書く。

4



・友達の発表の中でよかつたところや
分かりやすかつたところを振り返
ることで、交流することのよさを
実感できるようにする。

4.2.7 遠隔合同授業の実践例7 ALTによる発音指導などの日常的活用

遠隔会議システムを通じて、ALTによるネイティブな発音に触れることができる授業。

学年

1年 2年 **3年**

4年 5年 6年

教科・単元

外国語活動 / 友だちにインタビューしよう

学校①

学校 **高森町立高森中央小学校**

学級人数 **19人**

学校②

学校 **高森町立高森東学園義務教育学校**

学級人数 **4人**

▼ICTを活用するねらい

| ICTを活用して行う活動や場面 | ICTを活用する意図やねらい |
|-------------------------------------|---|
| 遠隔会議システムを用いて、ALTと一緒に発音練習を行う。 | ALTによる発音指導を帯学習として位置づけて、毎時間行うことで、ALTが教室にいなくても、遠隔会議システムを通してALTの発音を聞いたり、指導を受けたりすることができる。 |
| 遠隔会議システムを通じて、両校の児童が英語でコミュニケーションを行う。 | 発表時に遠隔交流を行うことで、多くの人と多様なコミュニケーション活動を行わせる。 |
| 大型提示装置でデジタルコンテンツを活用する。 | 指導用コンテンツを拡大提示することで、児童の興味関心を高める。 |

実践校による遠隔合同授業の評価

- 少人数の学級のみでは活動のバリエーションが少なく、複数の児童と活動を行うことが難しかったが、遠隔合同授業で行うことにより、多くの児童と交流することができました。
- 遠隔地にいる相手校の児童からの注文を聞くことで、より場面設定をはっきりとさせることができました。

教室内の機器配置



学習活動

教員の指導・援助

ICTの活用方法

4.1

遠隔合同授業における
様々な学習活動

4.2

遠隔合同授業の
実践例

導入

1 **Worm-up**
・Song“Genki English”
・めあてを確認する。

※学校ごとに、担当の教員が主となり授業の進行を行う。

- ・歌を歌って英語の授業の雰囲気を作る。
- ・(両校それぞれで)本時のめあてを確認する。

- ・大型提示装置でデジタルコンテンツを再生し、両校で歌を歌う。

2 **Let's Practice**

- ・使用する表現の練習をALTと行う。
- 「毎時間の帯活動として位置づけ、5分程度の発音練習を遠隔で行う。」



2

学習場面

 遠隔にある教育資源の活用



- ・遠隔会議システムを通じて、ALTが本授業で使用する表現を発声する。



- ・遠隔会議システムを通じて、相手校にいるALTと一緒に英語の発音指導を行う。

- ・発音の時の口の動き等を参考にするためALTの顔をアップにする。

3 **オリジナルT-シャツ作り**

- ・2人組で相手にインタビューを行い、相手の好きなT-シャツを作成する。



3

学習場面

 議論や話し合い



- ・自校の児童の発音を確認し、指導を行う。



- ・ゲームの説明を行い、ゲームを行っていく。



- ・全体的な指示を行う。また相手校との交流時に自校児童の発表サポートを行う。



- ・相手校との交流時に相手校児童の発表サポートを行う。

- ・大型提示装置に、相手校の児童が映るようにカメラを調整する。



- ・遠隔会議システムを終了し、相手校から切断する。

4 **ALTと本時に学習した表現方法のやり取りを個別に行う。**

※学校ごとに、担当の教員が主となり授業の進行を行う。

- ・本時の学習を振り返るための評価問題を出題し、児童の評価を行う。

5 **本時の振り返り。**

まとめ

4.2.8 遠隔合同授業の実践例8 地域の特徴を互いに紹介

個々の児童が調べた地域の特徴を互いに紹介しあう授業。

学年

1年 2年 3年

4年 5年 **6年**

教科・単元

家庭 / くふうしよう おいしい食事

学校①

学校 **川上村立川上小学校**

学級人数 **2人**

学校②

学校 **東吉野村立東吉野小学校**

学級人数 **6人**

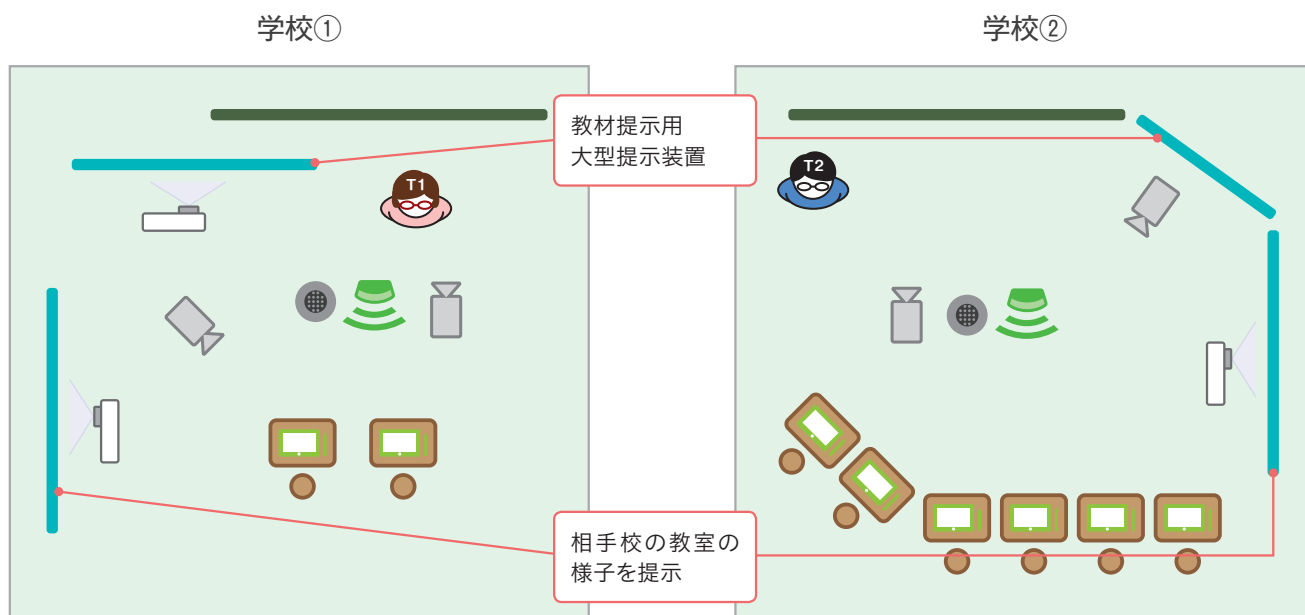
▼ICTを活用するねらい

| ICTを活用して行う活動や場面 | ICTを活用する意図やねらい |
|----------------------|---|
| 各村の地域食材や特産品を紹介する。 | 地域食材や特産品を紹介しあうことで、互いの村の様子を知ることができるようにする。 |
| グループで話し合い、使う食材2品を選ぶ。 | 多様な意見を交流し合い、栄養バランスや食品の組み合わせを考えて選ぶことができるようにする。 |
| グループ交流で出た意見を全体に発表する。 | グループの考えを全体で交流し合う。 |

実践校による遠隔合同授業の評価

- 各村の地域食材や特産品の実物を紹介したりおすすめポイントを伝えたりすることで、互いの村の様子を知ることができました。また、隣の地域には同じ特産品があることに気付くことができ、いろいろな食材に興味を持って取り組むことができました。
- 相手に分かりやすく発表する姿勢が身につきました。

教室内の機器配置



学習活動

教員の指導・援助

ICTの活用方法

4.1

遠隔合同授業における
様々な学習活動

4.2

遠隔合同授業の
実践例

導入

1

これまでの学習を振り返り、
本時の学習のめあてを確認
する。

めあて 川上・東吉野コラボ弁当の食材を考えよう。



・前時を想起させ、1食分の弁当作り
への意欲を高める。



2

弁当作りの計画を立てるとき
に大切なことを予想する。



・弁当作りの計画を立てるときのポイ
ントを確認する。
(栄養バランス 色どり 調理時間
食中毒 つめ方等)

・発表者は、黒板前に立ち、資料を見せ
ながら発表する。

3

各村の地域食材や特産品を
紹介する。

学習場面

発表



・おすすめポイントを伝えたり、実物
を見せたりさせる。
・大きな声で分かりやすいように発表
させる。



4

グループで話し合い、使う
食材2品を選ぶ。
(川上食材1 東吉野食材1)

学習場面

考えや意見の出し合い



・生魚や生肉は扱わないことや調理の
しやすさを考えて選ぶようにさせる。

・グループごとに情報端末のWeb会議
システムで交流する。



5

グループ交流で出た意見を
全体に発表する。

学習場面

互いの特徴や相違点の伝え合い



・選んだ理由を分かりやすく説明させる。

・代表者は、黒板前に立ち、選んだ食材
を発表する。



6

友達の選んだ食材について
感想を伝える。



・発表を聞いて、栄養バランス、色
どり、調理時間、食中毒、つめ方等
でアイデアがある場合は紹介させる。

7

本時の振り返りをする。



・食材選びや交流学习について振り
返らせる。

まとめ

4.2.9 遠隔合同授業の実践例9 複式指導におけるICTを活用した遠隔合同授業

ICTを活用した複式双方向型遠隔合同授業。

| 学年 | | |
|----|----|----|
| 1年 | 2年 | 3年 |
| 4年 | 5年 | 6年 |

| 教科・単元 |
|--------------|
| 5年 算数 / 体積 |
| 6年 算数 / 比と応用 |

学校A

学校 **徳之島町立母間小学校**

学級人数 **5年:3人、6年:6人**

学校B

学校 **徳之島町立花徳小学校**

学級人数 **5年:5人、6年:6人**

▼ICTを活用するねらい

| ICTを活用して行う活動や場面 | ICTを活用する意図やねらい |
|--------------------------|--|
| 遠隔会議システムを用いて、両校の児童が話し合う。 | 相手校の児童との交流を通じて、コミュニケーションを伸ばす。 |
| 情報端末を用いて、自分の考えを友達に伝える。 | 多様な考え方に触れることで、問題を解く方法がいくつかあることに気づかせる。 |
| 複式学級で遠隔合同授業を行う。 | 教員と児童が直接対面する時間が増えることにより、児童の主体的な学習を促す支援をする。 |

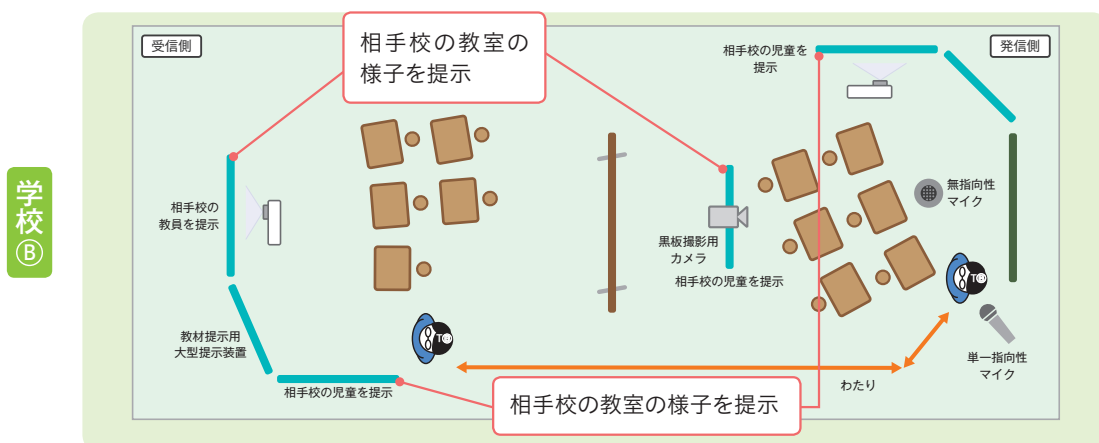
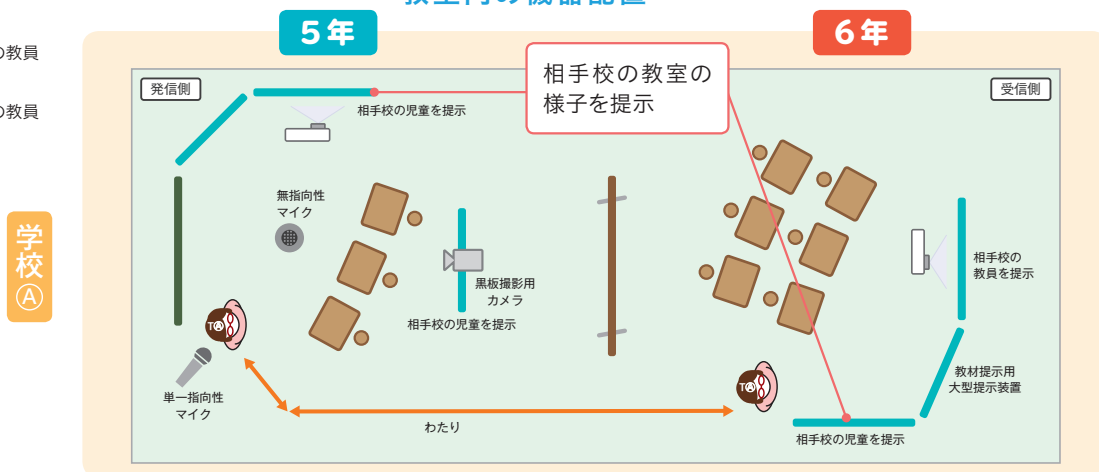
実践校による
遠隔合同授業の
評価



- 自校の児童だけでなく、相手校の児童も含めて問題の解き方を、比較・統合する活動を通して、よりよい解き方を共有し自分の考えを深めることができました。
- 複式双方向型遠隔合同授業を実施することにより、教員と児童が直接対面する時間が増加しました。これにより、主体的な学習を促す支援ができるようになりました。

教室内の機器配置

→ 学校Aの教員
 → 学校Bの教員



| | | 教員の指導・援助 | | 学習活動 | | 学習活動 | |
|-----|---|--|----------------------|---|---|---|-------------------------------------|
| | | T(A) | T(B) | 5年 | | 6年 | |
| | | | | 学校(A) | 学校(B) | 学校(A) | 学校(B) |
| 導入 | 1 | 両校の5年生に対して導入を行う。 | 両校の6年生に対して導入を行う。 | 前時までの復習を行う。 | | 前時までの復習を行う。 | |
| | 2 | | | 本時の課題を捉える。 ・「台形の体積を求めなさい。」 | | 本時の課題を捉える。 ・「全体の量と比が分かっている場合の計算のしかたを考えよう。」 | |
| | 3 | | | 課題解決の見通しをもつ。 ・2つを組み合わせてみよう。 | | 課題解決の見通しをもつ。 ・割合を使って分数で考えてみよう。 | |
| 展開 | 4 | 学校(A)の2学年分の児童の支援に入る。 | 学校(B)の2学年分の児童の支援に入る。 | これまでの学習から、どのようにして体積をもとめるのか考える。 | これまでの学習から、どのようにして体積をもとめるのか考える。 | これまでの学習から、どのような計算式で比をもとめるのか考える。 | これまでの学習から、どのような計算式で比をもとめるのか考える。 |
| | 5 | 学習場面 考えや意見の出し合い | | 発表準備を行う。それぞれの考え方を学校内で集約する。 | 発表準備を行う。それぞれの考え方を学校内で集約する。 | 発表準備を行う。それぞれの考え方を学校内で集約する。 | 発表準備を行う。それぞれの考え方を学校内で集約する。 |
| | 6 | 両校の教員で5年生の発表の支援をする。 | | 自分の考え方を発表し全員で話し合う。(練り合い) 学習場面 発表 | 発表準備を行う。(グループ学習) | | |
| まとめ | 7 | 両校の教員で6年生の発表の支援をする。(まとめを行った後、学校間で共有させる。) | | 各自で練習問題を解く。(個人学習) | 自分の考え方を発表し全員で話し合う。(練り合い・まとめ) 学習場面 発表 考えや意見の出し合い | | |
| | 8 | 両校の教員で5年生の発表の支援をする。(まとめを行った後、学校間で共有させる。) | | 自分の考え方を発表し全員で話し合う。(まとめ) 学習場面 考えや意見の出し合い | 各自で練習問題を解く。(個人学習) | | |
| | 9 | 5年生のまとめを行う。 | 6年生のまとめを行う。 | 本時のまとめをする。 | 本時のまとめをする。 | | |

4.1 遠隔合同授業における様々な学習活動

4.2 遠隔合同授業の実践例

◆ 複式双方向型遠隔合同授業の展開例

鹿児島県徳之島町では複式指導のデメリットの解消を主なねらいとして、2セットの遠隔会議システムを使い、複式学級の同学年同士をつないで授業を行っています。1単位時間の授業は、「導入」「展開」「まとめ①・②」に4分割され、両校の教員は各段階で互いの学年を行き来しながら指導を行います。授業パターンとして確立された動きに沿って指導を行うことで、効果的な遠隔合同授業を行うことができます。

複式学級指導を行う際の展開パターン（1単位時間）

